

第 14 回 対話研究会

令和 4 年 4 月 20 日 (水)

発表者 水川 宏信

課題図書

『ダイアローグ 対立から共生へ、議論から対話へ』

デヴィッド・ボーム

(用語)

○【インコヒーレンス (一貫性のないこと)】 (P 164)

- ・意図と結果がかみ合わない状態。
行動が期待通りに運ばない状態こと。
- ・人は矛盾や混乱を感じ、インコヒーレンスを隠すために自己欺瞞を行う。
- ・対立し合ったり、互いに打ち消したりする思考とともに、あらゆる方向に向かっている。(P 5 8)

○【コヒーレンス (一貫性のあること)】

- ・インコヒーレンスに敏感であれば、その状態を認識し始め、原因を探し出す。
それがコヒーレンスに通じる道。(P 164)

○【自己受容感覚】

- ・(神経生理学の用語) : 「動こうという衝動」と「動き」はつながりがある。(P76)
- ・自己知覚 (P75) ・自己認識 (P159) ・自己指示 (P159)
思考の自己知覚 (P167) ・思考の自覚 (P167)
思考は自分の活動を認識している (P167)

(本の内容)

◇思考とは、鋭敏な暗黙のプロセス（P58）

〔暗黙〕言葉に出されない。表現が不可能。

- ・描写（抽象的な形でとらえているもの・P127）から提示（認識）を生み出しているもの。（P136）
- ・思考は暗黙の領域から生まれてくる。（P58）
- ・思考における根本的な変化が暗黙の領域から生まれてくる。

◇思考には二種類ある（P52）

○個人的思考 ○集団的思考

- ・個人の思考の大半は、集団の思考の結果が他人の影響を受けた結果。（P57）
- ・集団による思考は、個人による思考よりも強力。
（「集団的思考」「集団思考」「集団による思考」「集団の思考」）

◇集団思考の性質（P115）

- ・思考は経験をしたものを描写する。（P127）
- ・描写は思考や想像の中に存在するだけでなく、認識または経験と結びつく。（P128）
- ・人は社会や文化を取り巻く、一般的な集合的描写によって世界を見ている。（P134）
- ・真の危機は、直面している出来事（戦争、犯罪、経済的混乱、公害など）の中にあるのではなく、そうしたものを生み出している思考の中にある。（P120）
- ・原因は常に現在にある。（P119）
- ・思考とは描写から提示を生み出している。それがわかれば惑わされない。（P136）
（提示されたもの＝認識されたもの）（P128）
- ・描写を変えると可能性が開ける（P135）
- ・思考についての考え方そのものが思考の構造そのものに影響を与える。
思考の内容と構造の双方を検討する。（P121）

◇意見は、過去の思考の結果（P49）

- ・意見とは想定（P48）
- ・誰もが異なった想定や意見を持っている。（P47）

◇人は自分自身と自分の意見を同一視する。(P48)

- ・意見は自己の利益への投資に縛られている。(P48)
- ・語り手の考えは、語り手が維持したい、守りたい内容 (P38)
- ・大切かもしれない考えに存在する矛盾との直面を避ける。(P40)

- ・人は自分自身についていくつかの想定を持っている。(P85)
- ・人が意見を守るのは、自分自身を守っているように感じるから。(P92)
- ・自分の想定を正当化せずにいられない。(P47)
- ・正当化していることに、たいていは無自覚 (P53)

- ・想定を保持して固執し「私が正しいに決まっている」などと主張することを続ける限り、知性には限界が生じる。知性は想定を正当化しないことを要求するから。(P92)
- ・自分の意見に固執すると対話ができない。(P53)

- ・自衛のメカニズム インコヒーレンスの源泉 (P4)
- ・個人的な意図は確固としたものになるときインコヒーレンスになり始める。
- ・幻影に支配され、やがて不条理へと発展する。

◇思考はあらゆるものを分離してしまう (P50)

- ・【断片化】
 - 宇宙を分割して考える見方。自分を他人や自然から切り離されたものとする見方。(P11)
- ・事物はあたかも個々に存在するかのように小片に分割されてしまう (P117)
- ・思考をし続けることによって、問題を絶えず生み出している。(P51)

- ・人々は断片化の状態へ順応する。(P19)
- ・文化によって広く共有化された不条理さに気づくのは容易ではない。(P5)
- ・「唯一の真実」を探求することが人々を分離させる。(P7)

- ・対話で断片化の動きを明らかにする。(P19)
- ・全体を理解する → 抽象概念からではなく参加というものを通じて生じる。(P9)
- ・真実に参加する 自分の一部がその真実の中にあることに気づく。(P10)

◇問題とパラドックス（P 135～）

- ・心の奥に無力感（抑えられている）
 - 批判・指摘されると不愉快な感情に呼び戻される。
 - お世辞を言われると浮き立つような感覚（苦悩から逃れて喜びを求める気持ち）
 - お世辞が真実でないことに気づく危険から自分を守るため、他人の話をすべて信じようとする。
 - たやすくだまされる。（P139～141）
- ・自分を欺く「必要性」のほうを感じる。（P141）
自分を欺けば、無力感から解放される。

〔問題〕

- ・議論を投げかけ、困難な事項や不適切な点を解決の方向へ導くための提案に疑問を唱える。（P138）
- ・理にかなった活動ができれば、潜在的な暗黙の前提は満足する。（P139）

〔逆説（パラドックス）〕

- ・自分の思考や感情が、自己矛盾する要求や「必要性」によってすっかり支配されている事実。（P141）
- ・目に見えるような解決策がない（P 28）
- ・心理的に何か不具合が起きたときは、「逆説（パラドックス）」に直面している。（P141）
- ・人の性質に存在する無秩序はパラドックスから生まれた。（P146）
- ・問題と表現することが、混乱を生む。（P 141）
- ・パラドックスにとらえられた心は、自己矛盾を進めようとした結果の苦痛から逃れるため、幻想を作り出そうとした自己欺瞞に陥るのを避けられない。（P146）
- ・注意を払う。事実を認識し続ける。→パラドックスは消える。（P141）
- ・問題を根絶しようとするのではなく、常にパラドックスそのものに注目する。（P 28）

◇見るものと見られるもの（P 149～）

- ・思考は、観察者のイメージと、観察されるもののイメージを生み出している。（P 152）
- ・自分が怒っている
観察者である 「私」
観察されるもの 「怒り」
- ・観察者は、想定や経験という動き（P 29）
- ・想定とは見られるものではない。想定が対象を見ている。（P 151）

- ・人は想定を通じて物事を見ている。(P 150)
- ・思考によって物事の状態を教えられたあと、そうした情報からどう行動するかは「あなた」が選ぶ。(P154)
- ・人は自分自身を観察していない。(P 154)
- ・自分の心の中を見るつもりでいても、想定を考慮に入れていない。(P 151)
- ・内面的な経験のパラドキシカルな性質
- ・観察者そのものの本質について考えさせることはない。心の活動範囲の限界。(P 29)

◇対話の目的や狙い。対話とは。

- ・多角的なプロセス (P 18)
- ・人間的な経験を探るプロセス (P 18)
- ・意識それ自体の理解を目的としている (P 24)
- ・新たなものを一緒に創造する (P 38)
- ・陰に存在する思考プロセスまで調べる。(P 48)
- ・全体的な思考プロセスに入り込んで、集団としての思考プロセスを変える。(P 49)
- ・あなたの意見を目の前に掲げて、見ること。(P 79)
- ・判断や想定を集団の形で明らかにすること。(P112)
- ・共通理解を探し出す行為。(P 195)

◇対話に参加する (P59～)

- ・偏見を持たず、互いに影響を与えようとすることもなく、相手の話に耳を傾ける。
双方が、真実と一貫性のあること (コヒーレンス) に関心を持つ。(P38)
- ・「ブロック」(矛盾についての無感覚・麻痺) しているものに各自が注意を払う。(P41)
- ・進行役の役割は、その役割そのものが不要となるようにすること。(P60)
- ・話題は何でもかまわない。
- ・互いを理解して、信じ合い、物事を共有できる関係を築き上げる。
- ・誰かを治そうなどという試みはされない。(P61)
- ・決定を下したりはしない。(P62)
- ・目標というものがあるとすれば、コヒーレントなコミュニケーションをとること。(P63)

- ・不変の対話グループを築くのではなく、変化を生み出せるまで続くグループを作ることが大切 (P66)
- ・継続することが重要 (P67)
- ・必要なのは「意味の共有」 (意義や目的を共有する)
→文化が存在、社会がうまく機能する。(P67)

◇想定を保留状態にする。(P68～)

- ・自己受容感覚を可能にするのを助けるため (P77)
- ・攻撃的な行動を保留する
→攻撃性の姿や、自分の心の中での真の構造がわかる (P157)
- ・二つの気づき (P158)
 - 肉体的な反応が思考によって生まれる
 - 思考が感情に影響を及ぼし、感情が思考に影響を及ぼしていることが、自分を通さなくてもわかる。
- ・感情はすべて保留状態にできる。(P160)
- ・感情を保留状態にすれば、その感情を働かせ続けるある種の思考や想定が存在することがわかる。
- ・想定を信じるのも信じないのも禁止。(P68)
良いか悪いかの判断をしてもいけない。
- ・ただ見るだけ (P69)
- ・抑制していないのだと、自分に言い聞かせずに観察する。(P161)
- ・今の状況を表す言葉を探し、そうした言葉がどう働くかをみる。(P163)
 - 苦痛について考える： 抽象概念をつくる
 - 苦痛そのものを考える： ただ思考が現れるに任せそれを見守る

◇意見を目の前に掲げてそれを見る (P79)

- ・すべての想定の意味を全員がともに考えれば、意識の内容は本質的に同じになる。(P80)
- ・他人の意見に耳を傾け、判断を下すことなしに意見を目の前に掲げて、自分の意見を他人のものと同様の土台に立たせるなら、「一つの心」を全員が持つことになる。(P88)
- ・人はみな同じだということに気づく。(P90)
感情を共有し、友情を育む。人々はオープンになり、互いを信用する。今度は知性が働く。
- ・誰かがまた別の想定を思いつけば、全員がそれに耳を傾け、その意味を共有する。
(対話のビジョン) (P101)

- ・文化や意義や自己認識と見なされている強力な想定に疑問を投げかける。
- ・人間とは何かという従来の定義が適切かどうかについての判断を促し
より人間的であることの可能性を集団で探る。(P19)

◇必要性という衝動 (P70)

- ・〔必然性〕 前身せずにはいられなくなる
- ・「これは絶対に必要だろうか？」 必要性への固執が弱まる。(P73)
- ・内なる必要性から生まれたものか (P74)
作るべき必要性 発見すべき必要性 → 創造的に認識する。

◇対話に対する鋭敏さ (P101)

- 〔鋭敏さ〕 何かが起きていることを感じ取る能力 (P102)
- ・自分や他人の反応の仕方を察知し、相違点や類似点に気づく。
- ・人を批難したり批判したりしない。あらゆる意見や想定を考え、表に出す。
何らかの変化が起きる。(P103)

◇参加型思考 (P175～)

〔具体的思考〕

- ・現実をありのままに反映することを目的 (P177)
- ・断片化の方向に向かいがち。(P181)
- ・インコーヒレント (P179)

〔参加型思考〕

- ・物事を一つにまとめようとする傾向。(P181)
- ・言葉や思考がすべてを網羅しているわけではない。(P178)
- ・すべてのものがあらゆることに参加していると思えず。(P180)
- ・何かを集団でおこなう場合に必要。(P182)